

令和3年度 第1回瑞穂市総合教育会議 会議録

令和3年8月23日(月) 午後4時00分開議

○日 程

開会

1 あいさつ

2 議題 ・グローバル化教育について

・読書のまちについて

3 その他

閉会

○出席者

市 長	森 和 之	教 育 長	加 納 博 明
教育長職務代理者	加 藤 悟	教 育 委 員	森 下 伊三男
教 育 委 員	加木屋 加緒里	教 育 委 員	大 平 高 司

○欠席者

なし

○説明のため出席した者の職・氏名

教育総務課長	松 島 孝 明	学校教育課長	坂 野 美 恵
幼児教育課長	今 木 浩 靖	生涯学習課長	佐 藤 雅 人
生涯学習課主幹	広 瀬 久 士	生涯学習課総括課長補佐	泉 大 作

○職務のため出席した者の職・氏名

総 務 部 長	石 田 博 文	総 務 課 長	野 田 秀 樹
総 務 課 主 事	黒 坂 昌 平		

○傍聴者

0人

開会 午後4時00分

開会の宣告

○野田総務課長 皆様こんにちは。本日は、大変お忙しいところ、令和3年度第1回瑞穂市総合教育会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。本日の司会は、総務課の野田が務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは会議に入る前に皆様方にお諮りをいたします。本会議は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4第6項の規定により、原則公開となっております。現時点では傍聴者の方は見えませんが、希望者の方があった場合には認めるということによろしいでしょうか。

(全員同意)

ありがとうございます。もう1点ですが、「瑞穂市総合教育会議運営要綱」第7条の規定に基づいて、議事録には、出席者の氏名等が公表されますので、よろしく願い致します。

それでははじめに森市長よりご挨拶を申し上げます。

あいさつ

○森市長 皆様改めまして、こんにちは。今日はお忙しい中、令和3年度1回目の瑞穂市総合教育会議にお集まりいただいたことにお礼を申し上げます。また、日ごろから瑞穂市の教育行政にご理解ご協力をいただいることに、この場をお借りして、お礼申し上げます。

今年は、コロナ禍での東京オリンピックでしたが、日本は過去最多のメダル獲得となりました。オリンピックが閉幕した一方で、東京では爆発的なコロナウイルスの感染状況となりました。

8月12日からは、九州北部から広島、そして東海地区にかけてこの時期には

珍しく前線が停滞をして、瑞穂市でも14日の午前4時30分から15日まで警戒態勢が続く状況でした。大平委員の地区では道路冠水が発生したため、私も現場の方に駆け付けたところ、区長と書かれたヘルメットと防災の服を着て、大平委員が陣頭指揮をとっておられました。本当にありがとうございました。

また、大雨による災害があった翌朝には、地震が発生して、市内に広報無線が流れました。震度4になると広報無線が自動的に放送する設定になっていますが、瑞穂市では初めてだと思います。震度4になると部長級の出動になるため、その朝には数名の部長が市役所の方に集まっておりました。

県内ではコロナウイルス感染症患者が300人を超える状況で、20日からはまん延防止等重点措置がなされ、今朝の県とのテレビ会議では国に緊急事態宣言を要請する意向で、今週中にも発出される状況ですが、小中学校の子供たちは夏休みで、少しは感染拡大が防げたのではないかと考えています。

しかしながら、市内では、連日のように感染者の確認がされており、若い世代の感染者から家庭内感染が増えています。今の変異株は感染力が強く、家庭内に持ち込まれるとすべての家族の方が感染してしまうと言われており、ある日の6人の感染者の内5人が10歳未満という状況には本当に驚きました。

対応として、人の移動、それぞれの行動自粛をしていただくために広報無線、駅前等でのメディアランナーやプラント6、平和堂、バローでのデジタルサイネージでの啓発をしている状況です。

ワクチン接種についても、65歳以上のワクチン接種率は県内でトップクラスでした。

しかし、県内でも最初の取り組みになったと思いますが、65歳以上の余剰分ワクチンで保育士への接種を行ったため、64歳以下の接種が他市町より少し遅れて開始した関係で、他市町よりは少し接種率が低くなりました。また、国からのワクチン供給量が減少傾向になったことで、7月には、約ひと月当たり4,600人から4,800人くらいの接種になりました。しかし、先週のみをみると1週間に4,000人を超えるような接種の体制で、ひと月に換算すると、ひと月当たり1万人くらいの接種を行っており、集団接種も9月10日から再開を予定しています。

12歳から15歳までの方のワクチン接種のクーポン券も発送の準備に入ったため、数日中にはご自宅に届き、それぞれの保護者の方のお考えで接種をしていただく体制をとっております。特別に12歳からの方を対象に集団接種を行うことや、優先して接種をすることは考えていません。

本日の第1回目の瑞穂市総合教育会議は「グローバル化教育について」と「読書のまちについて」が議題になっています。「読書のまち」についても夏休み前に児童1人に2千円の図書カードを配布して、この夏休みに1つでも思い出に残るような読書をしてほしいという思いでお送りしました。詳細については、今日報告があると思います。

ごあいさつが長くなりましたが、本日はよろしくお願い申し上げます。ありがとうございます。

○野田総務課長 ありがとうございます。それでは、瑞穂市総合教育会議運営要綱第4条の規定により、これより森市長が議長となって会議を進めていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

議題 グローバル化教育について

○森市長 それでは、議長を務めさせていただきます。よろしくお願いを申し上げます。1つ目の議題であります「グローバル化教育について」につきましては、委員の皆様のお手元に資料が用意されていますので、ご覧ください。

「グローバル化教育について」は、学校教育課長の坂野課長より説明をさせていただきます。よろしく願いいたします。

○坂野学校教育課長 （資料に基づき、「グローバル化教育について」の説明）

○森市長 ありがとうございます。グローバル化教育について、説明してもらいましたが、事務局の方で補足があれば、お願いします。皆さんよろしいでしょうか。

では、委員の皆様からご意見やご質問をいただきたいと思います。まず、その前に私の方から1・2点お聞きします。教育課程特例校は、教育長から伺っておりますが、特例校の申請後は、どのようなスケジュールになるのでしょうか。

○坂野学校教育課長 文科省に8月に申請をしましたので、認定されれば教育課程の編成を標準の時間ではなく、この枠組みを超えた時間をそれぞれの学校で編成すること

ができるようになります。

○森市長 その承認されるとは、どこの学校でも自動的に承認されますか。審査がありますか。

○坂野学校教育課長 文科省で審査があります。生津小学校は、毎年特例校の申請をしていましたが、それを市内全校でやるということです。

○森市長 認定されないことはありますか。

○坂野学校教育課長 ほぼないと思います。

○森市長 特例校になって、令和4年度から1・2年生に25時間教えられるということは、その子供たちが持ち上がってきたときには3・4年も変わってきますよね。そのような解釈でよろしいか。

○坂野学校教育課長 今やっている3・4年生、5・6年生のカリキュラムは、そのままですが、1・2年生にも加えていきます。

○森市長 加えていくということは、1・2年生である程度やって、3・4年になるともう少し深く学ぶのか、そのようなイメージでいいのですか。

○坂野学校教育課長 そうです。

○森市長 わかりました。

○加納教育長 基本的に特例校は、毎年8月に文科省から申請するようにしおりが来ます。今年度は、今やっているところです。おそらく認定されると思います。

また、3・4年生はどこの学校でも外国語活動をやっています。ですが、市内の小学校は教科としてやりたいと思っています。

○森市長 外国語科となっていますね。

○加納教育長 はい。そこを特色として出したいと思っています。

○森市長 わかりました。そこの違いですね。基本的なことを聞きましたので、委員の皆様もご発言いただければと思いますが、よろしいでしょうか。

○森下委員 今の特例校についてですが、令和4年度の1・2年生は次の年度からまず3年やれたらということで、自由に色々変えていかなければいけないと思います。特例校について私もあまり存じ上げませんが、生津は毎年申請しているわけですね。これを毎年申請していったら、途中で文科省から打ち切られる可能性はないですか。1年生が入ってきたら卒業するまでの最低5・6年続けたいといけないで

すよね。

○坂野学校教育課長 多分ないと思います。生津も認定されなかったことはないです。

○加納教育長 おそらく大丈夫です。

○坂野学校教育課長 特例校も様々な特例校が出ており、特定教科の授業時間数を減らし、新教科を設定する授業時数特例校も出てきたりして、特徴を生かせるようにしています。結局、地域の実態に合わせながら、教育課程を少しずつ効果的に編成できるようなことを進めるために設けられている制度ですので、申請があまり却下されることはないと思います。

○森下委員 内容を少しずつ変えながらでも、できたら10年ぐらい、20年以上は続けてほしいですね。

○大平委員 3つほど質問があります。1つは、生津小では、すでに1・2年生からの外国語活動をやっていますね。

○坂野学校教育課長 やっています。

○大平委員 何年ぐらいですか。

○加納教育長 平成8年に私が穂積北中学校にいたときに文科省の発表をやりました。

○大平委員 それだけ長くの実績があるということは成果や課題が十分積み重なり、それが生かせるということですね。

2つ目は、この外国語活動を1・2年生で増やせば、今のカリキュラムで、何かを減らすことになるのでしょうか。

それから、3つ目は3・4年生が外国語活動から外国語科になる場合、どのような違いがあり、その狙いがあれば教えてください。

○坂野学校教育課長 1・2年生については、増える分は余剰時間を使う予定ですが、生活科や国語を少し減らすこともできます。今のところの計算で行くと余剰時間でできます。

○大平委員 余剰時間ですね。私はやっぱり他の科目を減らしてほしくないです。特に国語は減らしてほしくないと思います。まずは国語をきちっと押さえないといけないと思います。

○坂野学校教育課長 それは思っております。

○大平委員 だから、今余剰時間と聞いて少し安心しました。そのような余剰時間はどこに

あるのでしょうか。

○坂野学校教育課長 今までも少し余分にやっており、実際に低学年でもALTが年間に4・5時間は入っています。それも余剰時間で少しずつやり始めています。1・2年生は、カリキュラムに余裕があるので、十分25時間は取れます。計算上は25時間取れる予定です。

それから3・4年生が外国語活動から英語科に変わると、カリキュラム上、学習すべき指導内容を明確にしなければならないということと、それに対する評価がきちっと現れます。それにより系統性がより強くなるので、それぞれに対する教師の構えが変わることが利点だと思います。

○大平委員 なぜ気になってお聞きしたかという、今日たまたま英語学習が早ければいいかという内容の本を読み、3年生ぐらいから意欲を高めるように上手にやっているといいよという話を書いてありました。本市では、生津小でノウハウの蓄積があると思います。生津小の成果を生かしながら進めていただきたいし、特に国語の質も維持していただきたいと思います。

○加納教育長 標準授業時間数は、クリアしないといけないので、1年生は、ほかの教科を減らすことはできません。そのうえでできる時間は十分あるので、月に2・3時間を使おうと思っています。

また、評価されることによって、何を学ぶのか何を身に付けるのかがはっきりすることに大きなメリットがあると思います。

1・2年生の授業で英語に触れること、耳から入ってくること、そういうことが自然に出来るように目指していきたいので、追い込むような英語学習をやるわけではないです。楽しめる英語学習をします。

○大平委員 ある程度、早い方が発音も身にしみこみやすいですし、インプットが大事だということですね。

○森市長 ありがとうございます。ほかよろしいでしょうか。加木屋委員よろしいでしょうか。

○加木屋委員 以前、生津小学校で英語の授業を見させていただきましたが、1・2年生から英語に触れるということで、子供たちがすごく生き生きとして楽しそうに授業をしている様子がありましたので、本当に素直に子どもたちが英語に触れている

なという感じを受けました。あのような授業をすると子供たちが英語に対する抵抗感なく、耳から入って違和感なく英語の世界に入っていけると思いました。ぜひ授業の雰囲気をも他の学校にも広めていただきたいなとその時に思っていたので、すごくありがたいです。

○森市長 ありがとうございます。加藤委員よろしいですか。

○加藤委員 今こうやって資料を準備いただいてお話を聞いていて、すごいなというのが第一の感想です。

それから、来年から特例校として、それぞれの学校の実践が始まるそうですが、それに備えて先生方の研修計画も充実していてよかったです。先生方は夏休みなどを活用しながら、自信を持って指導できる体制があるのはありがたいと思います。

それから、もう1点は、2枚目のICT教育の方のタブレットについてですが、これを見て子供たちはすごいなと思いました。このように観察して、それを記録に残して、それをもとにしながら、仲間と交流し合うことができているし、社会科の学習では、タブレットを使って調べたい資料を見つけ、その中から自分の課題に合わせた資料を選びながら解決していく活動と、同時にその資料をまた使いながら学級全体で高めていくことができつつあり、大変うれしく思っております。

ただ、心配しているのは、実際に自分で歩いて調べたり、実際に自分の目で実験したり、観察したりすることがおろそかにならないか心配しております。

○坂野学校教育課長 体験学習も大事にしておりますので、まち探検、いろんな方々と触れあう活動、春見つけや夏見つけなどをやっております。また、中学校では職場体験や防災についての調べ学習、実際に川の様子を見に行くこともやっており、学校教育の中では体験を通して学ぶこともすごく大事にしております。そのため、どうやると子供たちに有効に働くか、バランスよく考えながら教師側で検討し実施しています。

○森市長 タブレットについて、ご質問やご意見はありますか。

○森下委員 体験授業の時についてタブレットの活用もしていただけるといいと思います。

また、今後、臨時休業になったとき、家庭にタブレットを持って帰らせて遠隔授業を行うと説明いただきましたが、オンラインで教育相談などの窓口を作っただけだと何かあった時に家庭から相談ができ、役に立つのではないのでしょうか。せっかくタブレットがあるので導入していただけたらと思います。

○森市長 ありがとうございます。では、最後に全小学校が特例校になった場合に、それぞれの小学校において差が出ることはないかということを含めて、教育長から「グローバル化教育について」まとめをお願いしたいと思います。

○加納教育長 生津の英語については、市内の小学生をお持ちの保護者から要望がずっとありました。それだけ広まっていて、生津の英語をうちの学校でも導入してほしいと期待を持たれる市民の方が本当に多いと思います。

同時にグローバル教育ということで考えると、すべての学校の子供たちにALTとの会話を含めて、こういった体験を通して学べるような環境を整えたいと思っていました。最初は、生津との差は多少あるとは思いますが、生津との差は埋まっていくだろうと期待しております。

また、今年は生津小学校で発表会がありまして、そこへすべての小学校からできる限り多くの教員に参加してもらい、自分の該当する学年の授業を見てもらうことも考えておりますので、見て学ぶことをどんどん進めていくことによって、すべての学校が特例校になっても差が生じないような方法を考えて進めていきたいと思っております。

議題 読書のまちについて

○森市長 ありがとうございます。それでは、次の2つ目の議題の「読書のまちについて」を進めていきたいと思います。こちらもお手元の資料に沿って、生涯学習課の方から説明をしていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

○佐藤生涯学習課長 読書のまちについては、現在子どもの読書活動推進計画に基づいて、子どもの読書を推進しております。この計画は5年計画で現在第2次計画となっておりますが、今年度をもって計画期間が終了するため、令和4年度から第3次の活動推進計画を策定することになり、現在策定事業を進めております。説明は、現在計画策定に携わっております広瀬主幹の方から説明させていただきますの

でよろしくお願ひします。

○広瀬主幹 (資料に基づき、「読書のまちについて」の説明)

○森市長 ありがとうございます。では、皆さんからご意見をお伺いする前に、少しだけ私からお聞きしたいことがあります。今回のアンケートは、読書の活動推進計画の策定をしたために実施したということですが、この計画というのは何年計画ですか。来年度からですか。

○佐藤生涯学習課長 5年計画です。

○森市長 前は、平成28年度にアンケートしていたということですね。5年間もアンケートを取らないのは、間隔が少し長いように思います。中間くらいでアンケートを実施したほうが、その計画自体も何か進めていけるものになると思うので、中間時点で、もう1回このようなアンケートを実施して、後期計画の策定をしていただきたいと思います

読書の活動について、今の説明の中で、ご意見ございましたらお願いいたします。

○大平委員 まず1つ目は、小学生くらいの子供たち向けの読み聞かせが増えているのは、すごくうれしい結果だと思います。どうしても家庭格差があり、保護者がものすごく読書する人かどうか、家庭に本がいっぱいあるかどうかでかなり差が出てしまいます。しかし、読書の習慣がない家庭の子供は学校を利用するといいいと思います。当たり前のことですが、学校図書館の本が充実していれば、本当に好きな人は全部読みます。1つ質問ですが、司書教諭さんは全校いますか。

○坂野学校教育課長 司書教諭はおります。図書館は会計年度任用職員に整備していただいています。

○大平委員 高校では、本の貸し出しが増えるのは、図書館司書さんの力が大きいです。行事に合わせた本をそろえる工夫や子供たちが質問しやすい雰囲気を作り、蔵書が増えるような図書館の雰囲気づくりをできる司書さんが充実するとさらにいいなと思います。

問題は、全国的に中学生の読書量が減るというデータがあり、そこが1つの課題です。部活や塾などの関係で、中学生の時に読書習慣が途切れることがありますが、ちょっと刺激があれば短い時間でも読もうとしたいと思います。例えば、図

書館の司書さんが中学校にブックトークに行って、関連する本をセットでそこに置いてもらう。そうすれば、1つの材料を持って、いろんな中学校でできますよね。また、中学生が幼稚園の園児さんに読み聞かせに行くなんてこともいいですね。これは、読書が好きな生徒に限られるので、増やすのはちょっと難しいかもしれません。

○加納教育長 ブックトークのような内容の国語の授業があります。

○大平委員 今はありますよね。国語の時間に図書館の方が出張したりする。そうすると生徒はいっぱい見に行くと思います。

○加納教育長 調べましたら今から5年前は、中学生になると本当に本を読みませんでした。ほとんど読んでいませんでした。その時に本を読むのは好きですかというアンケートに「好き」と答えた中学生は32%でしたが、今は53%まで増加しているので、まだまだですが、5年間でも地道にやってくると変わってくるなと思います。読書習慣は少しずつですけども、身に付き始めたかなと思っております。

○森市長 他にご意見ございますか。

○加藤委員 どちらかという、私は読書が苦手な方でした。ただ、自分のこれを振り返ってみたときに、読書をしておけばよかったと思いがたたくさんあります。例えば、語彙が少ないことや、話をするのに相手にわかりやすく話すること、そしてサッと読んでも読み取れる力がつくことです。そういった点では、読書は、大事だなということをつくづく反省しています。

では、子供たちが何をきっかけにして読書をするのかなと考え、家族が子供に読み聞かせをすることで、本に興味をもって、何度でも同じ本を読んでもらうとせがみますよね。そのようなことから、少しずつ読書習慣がつくのかなと思います。

また、各学校や保育所、幼稚園でボランティアの方が読み聞かせをしていらっしゃると思います。朝の会が始まる時にその方たちが読み聞かせをしています。子供たちは本当にその読み聞かせに集中して聞いています。読み聞かせを通して読書に興味を持っていくのかなと思いました。きっと今後も継続していらっしゃると思いますが、市内の図書整理員の方が大変熱心に子供たちの状況をつかみながら図書館の経営を、図書の担当の先生と一緒にしていらっしゃるこ

ろをよく見かけます。

2年程前に生津小学校に行ったときに、知り合いの整理員の方に話を聞いたら、子供たちに本を紹介しながら、実際に飼っているカブトムシの様子を見せたりしているそうです。本を通して自然に関心を持つように工夫をされており、整理員さんの存在も大事だなということもつくづく思ったところです。

○森市長 ありがとうございます。森下委員よろしいでしょうか。

○森下委員 資料の6ページの間12を見ると、どうやって読み聞かせをしたらいいのかと困っている保護者の方がいらっしゃるようです。読んでそれを聞かせるのが基本ですが、例えば見ていると勝手に子どもがどんどんページめくってしまっていると書いてありますが、何かケアをしてあげるといいのかなと思います。何かの機会に保育園などで、家庭で読み聞かせをうまくやるにはどうしたらいいのかケアをちょっとしてあげるとこのような質問はなくなるのかなと思いました。

○森市長 ありがとうございます。加木屋委員よろしいでしょうか。

○加木屋委員 まず、読み聞かせについてですが、お父さんがいざ子供を見ようと思ってもどう遊んであげたらいいかわからないときに、本があって助かりましたという話を以前聞いたことがあるので、お父さんが育児に参加しやすいツールとして読み聞かせはとても大きな力になると思います。

森下委員さんが言われたように、保護者が読み聞かせとはこういうものだという固定観念に縛られてしまっていると思うので、そのようなときにアドバイスをしてあげられるような何かがあると保護者も安心すると思いました。

先ほどの図書館司書の力量について、以前子供たちが高校進学を決める段階で、どこの高校に行きたいかについて話をしたときに、多くの子がとある高校を希望しました。その理由に図書館が充実しているからという話をした子がたくさんおり、子供たちにとって図書館がある意味とても魅力的なところだと思いました。特に、図書館に行って本と触れ合うことのハードルの低さがすごく大事だと思うので、難しい本ばかりではなく就職や職業のことなど身近なことをアピールしてくれる図書館であれば、中学生の読書量の減少を防げると思います。

また、学校での朝読書は、今でも行っているのでしょうか。朝読書のような時間に本を近く感じてくれるのではないかと思いますので、ぜひとも今後も続けていっ

てほしいと思います。以上です。

○森市長 ありがとうございます。最後に加納教育長から話していただきますが、その前に少しか話させていただきます。

私も確実に読書活動は子供たちに定着をしていると思います。やはり読書をすることによって、考え方の変化や感動、心に残ることがあると思います。

もう1点は、夏休み前に教育長と一緒に各小学校、中学校を回らせていただいたときに、ある中学校で授業を見せてもらいました。教室に入って5分、6分ぐらいしてから教育長のところに行って、「すごい授業をやっていますね。」と私はお話しました。しかし、その内容の何がすごいのかは教育長にはお伝えはしていませんでした。

読書をすることによって、教科書を見て理解する力がつき、子供たちの発表の発言が長く、しっかり話せていました。教育長や先生方の力もあると思いますが、読書をしてきた結果が授業の中に表れていたと思います。子供たちが教科書を見て、理解をして、それを覚えて話せる力がついていると思っていたので、ちょっとお話をさせていただきました。では、教育長から最後にお話を聞きたいと思います。

○加納教育長 ありがとうございます。市長に評価していただいて、本当にうれしく思います。

ベネッセがアンケートを取っており、学力が低い子と高い子を分けて、本を読む量を比較すると、読む量が多い子は、学力が高い子も低い子も必ず成績が上がる傾向がありました。その中でも、低い子の上がり方はすごく、社会科あるいは算数で非常に効果がでたそうです。算数の理由は何かというと、問題を間違えずに読めるからだそうです。これを保護者にお話すると、さらに心が落ち着くとおっしゃっていました。それもベネッセはアンケートで結果を出しています。

昨今のコロナの中でも、すべての15歳以下のお子さんに配った2千円の図書カードで本をきちっと買って読んでくれると将来にまた役立つだろうと思います。

「読書のまち」というにはまだまだみすばらしいところがいっぱいあるので、

着実に進めてきたところを成果としてさらに充実させながら、子供たちや大人の方々にも力を借りないといけないことはたくさんあるので、そのようなところを今後は充実させながら、小さいころから中学生、あるいは高校生も含めてできることは今後取り組んでいきたいと思っております。名実ともに「読書のまち」といえるように進めていきたいと思っております。いろいろご意見いただきまして本当にうれしく思います。ありがとうございました。

○森市長　ありがとうございました。他の委員の皆様はよろしかったでしょうか。では今回の議題となりました「グローバル化教育」、そして「読書のまちについて」は、それぞれ進めていっていただきたいと思っております。

せっかくの機会ですので何かございましたら、ご発言よろしいでしょうか。また、いつでもおっしゃっていただければと思います。本日は誠にありがとうございました。

最後に市長が議事録を作成することになっておりますので、一任をしていただくということで皆様よろしいでしょうか。

(全員同意)

次の総合教育会議は、いつごろでしょうか。

○野田総務課長　2月頃で考えております。

○森市長　また、次回に向けてということで、学校教育については、個別最適な子供たちの学習のためにタブレットの活用について、もう少し深く見られる場面があるといいと思っておりますし、幼児教育課についても、今年の4月から「幼児支援課」から「幼児教育課」と課の名前を改めていることから、教育という視点で保育の今進めている現状や報告を、生涯学習課についても、社会教育といった視点での取り組みについての状況などもこの場で報告いただければありがたく思います。勝手な私からの思いですので、よろしくお願いをしたいと思っております。

では、円滑な運営にご協力をいただきましたことにお礼を申し上げます。事務局の方へお返しいたします。

閉会の宣告

○野田総務課長　本日は熱心にご審議いただきまして、誠にありがとうございました。これ

で閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。

閉会 午後5時13分